



わたしたちの 日本一 美しい村

2016

広報

しらかわ

1 月号
No.534

賀正

暖冬 積雪のない白川郷



CONTENTS

- 新年のごあいさつ 2
- 世界遺産登録20周年記念フォーラム ... 4・5
- あったかい言葉がけ一行詩 8・9
- 白川村消防団協力事業所表示制度について ... 12

例年であれば年末年始にたくさんの雪が降る白川村ですが、今年は新年を迎えてもほとんど積雪がありません。寒く厳しい「白川郷の冬」。今年はやってくるのでしょうか・・・



新年のごあいさつ

白川村長

成原

茂

新年明けましておめでとうござい
ます。村民の皆様には、輝かしい平成28
年の明るく希望に満ちた新年をお迎え
のことと、心からお慶び申し上げます。
平素は、村行政の各分野にわたり、

格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼
申し上げます。昨年4月の統一地方選
挙におきまして、村民皆様のご信託を
賜り、二期目の重職に就任させていただ
きました。一期目と同様に皆様のお声
をいただきながら、真摯に村づくりに励
んで参りたいと存じますので、更なるお力
添えを賜りますようお願い申し上げま
す。

さて、昨年は世界文化遺産登録20周
年を迎え、皆様のご理解、ご協力によ
りまして様々なイベントを開催すること
ができました。地域の皆様と共に改め
て真正な保存と良質な活用に向けて意
識を共有することができましたことに
心からお礼申し上げます。また、北
陸新幹線の新沢駅までの開業、そして
岐阜・石川両県のご理解の下、白山白
川郷ホワイトロードと名称を改め、通
行料金も全車半額となり利用台数が大
幅に増加しました。こうした効果もあつ
て白川郷を訪れた観光客も6年ぶりに
170万人を超えることが予想されま
す。その反面、県道白山公園線や国道
360号線が昨年の豪雪災害により復
旧が遅れ、大切な観光資源の利用がで

きないまま本格的な冬を迎えることにな
りました。一喜一憂する年でありまし
たが、これからの村の観光産業にとりま
しては大きな変化のあつた年であつたと思
います。

一方、国では地方創生法が成立し、
東京圏に集中する人口を是正し、私達
の地域で住みよい環境を確保して、将
来にわたって活力ある社会を維持する施
策を講じながら、白川村も単独村を維
持継続できる努力を村民総意で傾注し
なければならぬと、強い想いで臨んだ
年でもありましたが、「国土強靱化↓
地方創生↓億総活躍社会」と言葉が
踊っている現状に憂いをいたしてもおり
ます。しかし、私達の先人が築いてく
れた独自の文化を守りながら、村独自の
施策を展開し、言葉だけではなく白
川村に適応する地方自治の可能性を切
り拓いていくことが、村民皆様が地域に
愛着と誇りを持ち、住んでいて良かった
と実感でき、いつまでも住み続けたいと
思える村社会の実現に向け、より一層の
努力をしたいと考えます。

村の企業誘致活動は、(株)共立メンテ
ナンスの集合賃貸住宅ドミール白川が竣
工した他、(株)川本製作所の保養所や水研
究施設等については5月完成を
目指して工事が進められています。特に
ホテル(高級旅館)誘致につきましては、
資材や人件費の高騰、雇用不足等の理

由により決定が遅れておりましたが、
積極的な誘致活動が功を奏し、現在、
内定の方向で前進をしております。ま
た、地域おこし協力隊7名の活躍によ
り、移住・定住対策や観光振興等、地
域の皆様にも助けられながら種々活動を
展開しておりますが、彼ら隊員の持つて
いるノウハウや人脈をしっかりと発揮して
いただき層村づくり、地域づくりに尽力
してくれるものと確信しています。

移住・定住活動を活性化させた結果、
9世帯(17名)の方に移住をしていた
だくこともできました。高齢化や少子
化が叫ばれるなかで、人口減少対策を
含め地域活性化のため、最重要課題と
して今後も継続して取り組んでいきます。

医療・福祉面においては、白川診療
所が新しく整備され、「県北西部地域
医療センター」として昨年4月に開業す
ることができました。複数(4名)の
医師が村の医療を担う新たな仕組みを
創設したことによつて、村の医療サービ
スはより手厚く確実な体制をとること
ができました。また、高齢者の方等の
村内の移動支援「まめなカー」に続き、
新たに高山市街へのお出かけ支援「いか
まいカー」を週2回、5月より運行し
ています。利用者が日に日に増えている
中で、福祉基盤も着実に整いつつあり、
今後も重点的に医療・福祉の充実を図つ
てまいります。

計画が遅れている東海北陸自動車道
の清見IC以北の四車線化工事促進につ
きまして、岐阜県、沿線市村と連携を
強化して国土交通省並びに中日本高速
(株)に対して粘り強く要望活動を展開し
ています。また、村の生活生命線であ
る国道156号線改良促進については、
白川村と高山市で構成しております
「牧戸(御母衣)道路改良促進期成同
盟会」は発展的解散を行い、新たな「国
道156号改良促進期成同盟会」を郡
上市・高山市・南砺市・砺波市と白川
村の四市一村で構成し、積極的な要望活
動を富山県と岐阜県に対して行つてき
ました。この結果として、福島バイパス
における牧坂登坂車線工事は順調に進
捗し、新たにスノーシェッドによる防雪工
事にも着工して頂きました。

これまで以上に村民皆様のお声を頂
きながら、職員と二丸となつて、「いつま
でも住み続けたい村」「住んでいて良かつ
たと思える村」の実現に向かって「二歩二
着実に全力で取り組んで参ります。村民
皆様におかれましては、村づくり・地
域づくりのために二層のご理解とご支援
をお願い申し上げます。

村・地域はもちろん、村民皆様にと
りまして迎えました平成28年が幸多い
年でありますよう心からご祈念申し上
げまして、新年のご挨拶といたします。

食べ過ぎ、飲み過ぎ・・・心当たりありませんか？

あけましておめでとうございます。

年末年始は、ご馳走を食べたり、お酒を飲む機会が増え、楽しい季節ですね。ただ、食べ過ぎや飲み過ぎで、つつい体重が増えてしまったという方はいませんか？不規則な食生活は、肥満や生活習慣病の原因となり、ゆくゆくは心臓や脳、腎臓といった大事な臓器へ影響を及ぼす危険があります。

新年を迎え、新たな気持ちで、食生活を振り返ってみませんか？



普段から気を付けたい！ 生活習慣病予防のための食事のポイント

①食物繊維を積極的にとりましょう！

食物繊維は、水分を含みやすく、粘着力が強いので、胃や小腸で、食品中の脂肪や糖を吸着してくれます。そのため、脂肪や糖は体内へ吸収されにくくなります。

また、食物繊維を最初に食べることによって、吸収を遅らせ、急激に血糖が高くなることを抑えたり、食べ過ぎを防ぐことができます。食べる順番にも気を付けてみましょう。

〈食物繊維が多く含まれる野菜ベスト10〉

- | | |
|----------|----------------|
| 1.モロヘイヤ | 6.かぼちゃ |
| 2.ごぼう | 7.たけのこ(ゆで) |
| 3.オクラ | 8.春菊、里芋、大豆(ゆで) |
| 4.ブロッコリー | 9.とうもろこし(ゆで) |
| 5.なばな | 10.水菜 |



④食事の時間に気を付けましょう！

夜遅くに食べると、エネルギーとして使われません。その結果、肝臓にたまり（脂肪肝）、脂肪組織にたまり肥満になります。

②糖質はかしこくとりましょう！

糖質には、「複合糖質」と「単糖質」があります。「単糖質」は甘みが強く、体内への吸収が早いです。そのため、血糖は上がりやすく吸収された糖は脂肪になりやすいです。「単糖質」のとりすぎには、気を付けましょう。

〈単糖質〉

果物、ジュース、菓子類、砂糖、酒・ビール

〈複合糖質〉

ごはん、麺類

③ゆっくり、よくかんで食べましょう！

脳がおなかがいっぱいになったと感じるまでには、少し時間がかかります。短時間で食べると、おなかを満たされて満足する前に食べ過ぎてしまうことがあります。

⑤塩分のとりすぎに気を付けましょう！

〈1日の目標量〉

男性8g未満、女性7g未満

※高血圧の方や腎臓の悪い方は、男女ともに6g未満です。

塩小さじ1杯=3g



心身ともに健康な1年を過ごしましょう。

われらがつなぐ合掌文化

平成27年11月27日（金）トヨタ白川郷自然学校催事ホールにおいて世界遺産登録20周年記念フォーラム「われらがつなぐ合掌文化」が村内・村外参加者総勢130名の参加者が集い開催されました。



第一部「記念式典」

第一部の記念式典では、衆議院議員平沢勝栄先生をお迎えし「白川村出身者として」と題し特別講演をいただきました。平沢先生は演題にあるように白川村の出身者で平成20年御母衣の大戸家にお生まれになりました。ご講演では白川村の世界遺産登録に触れられ、「荻町の合掌集落が世界遺産になった理由は建物や風景などの美しさもあるが、それ以前に『結』に代表するように日本人としての精神性、心の原点がここには残っている。そういったものが評価された。」と白川村の精神性をお言葉にいただいた。その他にもいろいろなエピソードを



楽しくお話いただきました。式典では特別講演の他に文化庁熊本参事官より「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」に向けて文化庁感謝状が贈呈されました。この感謝状は今年の「重要伝統的建造物群保存地区制度」成立40周年を記念し、制度ができる昭和50年以前から町並み保存運動を開始し制度成立に寄与した保存会に贈られるものです。守る会は昭和46年に設立され、以後荻町の人々の努力により現在まで44年間継続して活動が続けられています。その取り組みが評価されての今回の授与となり、世界遺産20周年にさらなる花を添えていただきました。

第二部「記念フォーラム」

第二部の記念フォーラムでは、「白川村荻町の過去・現在・未来を語る」と題しパネルディスカッションが行われました。ディスカッションのコーディネーターに京都女子大学斎藤英俊教授をお迎えし、荻町の保存の歴史を年表で追いながら、荻町の保存の幕開けの時代から現在までの取り組み成果、そして未来へ向けて活発な意見が交わされました。まずトークセッション①として、柿崎京一先生の進行のもと宮澤智士先生、小林俊彦さん（妻籠を愛する会理事長）のお二人を交え荻町の保存の黎明期のお話をいた





できました。柿崎先生の昭和28年に初めて白川村に訪れた頃のお話や、萩町を守る会の設立に大きく影響を与えた妻籠の小林さんが白川村に初めて訪れることになったエピソードを交えて貴重なお話をいただき、また宮澤先生には文化庁建造物課長時代に白川村を世界遺産暫定リスト候補にあげていただいたその理由を含め、当時のお話をいただきました。次のトークセッション②は、平成7年の世界遺産登録から現在までの取り組みの話題を遺産登録直後の萩町区長であった川田裕さんと次期区長の佐藤一弘さんに登壇いただき、遺産登録後の萩町の交通対策の取り組みを



中心に振り返りました。川田さんからは萩町交通対策がはじめた経緯、佐藤さんからは取り組みの継続と平成26年に通年交通制限が実現するまでの20年の交通対策の取り組みの成果をお話いただきました。川田さんはいままでの経験を踏まえ、「萩町の人がみんな同じ価値観を持って答えを導き出したい。いろいろなことを議論することがなにより大事。」と村民一丸となる意識を育てることの大切さを説かれ、佐藤さんは「萩町の交通対策は世界遺産の価値をあげると板谷副村長から言われ、そういう気概で取り組んできた。」と今の観光車両通年交通制限の実現までの苦労話を佐藤さんならではの楽



しい雰囲気でお話をいただきました。最後のトークセッション③では、まず地域おこし協力隊の柴原孝治さんから話題提供として移住定住対策の取り組み報告がされました。報告では取り組みを開始してすでに6物件の空屋が利用されることとなり、移住者も3家族11人の人口増に貢献した実績が報告されました。そういった最近の取り組み報告を受けて、筑波大学の黒田乃生先生進行のもと九州大学の麻生美希さん、守る会会長和田正人さんの3人で「さらなる未来へむけて」というテーマでお話されました。まず和田会長より「売らない・貸さない・

壊さない」の守る会住民憲章の重要性や、今後が変わらず憲章の理念継承していくことを確認したうえで今後の空屋問題を見据えた場合の「貸す」部分の解釈議論の進捗報告を皮切りに、白川村観光計画作成を経験された麻生さんから、今後の白川村観光の未来を考えるうえで重要なこととして「本当に白川村を求めて訪れているお客さんが何を求めているかを見極めることが大切。そういったお客さんはさらに良いお客さんを連れてきてくれる。白川村の人々が思いをもつて観光をやっていることが伝わるような仕組み作りが大事。」と今後の白川観光の向かうべきヒントを提示されました。最後に和田会長から子ども達への継承に触れて、学校運営協議会を核とした「地域の人も子供を育てる」という視点の大切さを強調され、「白川村を誇りに思える部分を子ども達にしっかりと伝えていくことが我々の使命である。」と力強い決意をされていました。



ホールではゴブリンワークショップの展示も行われました。

今回の記念フォーラムではこれまでの取り組みの成果を振り返り、白川村がこれから向かうべき方向性を参加者全員が改めて考え直すとても良いきっかけになったと思います。「われらがつなぐ合掌文化」のテーマに込められた願いのように、先祖が育み、継承し続けてきた白川村の美しい文化をさらなる20年へ向けわれらの世代が子供達の世代にしっかりとつなげていきたいと思います！！

地域おこし協力隊からこんにちは!

協力隊の全国大会に参加しました

11月28-29日に第2回 地域おこし協力隊の全国サミットが兵庫県で開催されました。

現在全国では1,511名（平成26年度末のデータ）の地域おこし協力隊が活動しています。普段は全国にいる隊員が一堂に集結して活動発表や交流を深めるイベント。ニュースでも放送されたのでご覧になった方もいるのではないのでしょうか？

今年の参加者数は北海道から沖縄まで約800名が集合。白川村からは6名が参加。会場では私たちの活動を紹介するパネル展示や、事前取材を受けた活動紹介&インタビューを上映していただきました。

私たちには日本中にたくさんの仲間がいることを改めて感じることができた全国サミットでした。当日の様子は、私たちの活動ブログ「白川村から、こんにちは。」でも掲載しています。ぜひ読んでくださいね！（高橋）



村に移住者を増やすには？ 全国移住女子サミットに参加

平瀬のシェアハウス「やまごや以上ほしぞら未満（通称やまほし）」では、今までワークショップへの参加者の多くが20代～30代の女性であることから、“若い元気な女性”を入居者とすべく、移住に関心のある女性のニーズを探っています。

今回は、そんな女性が集まる場として新潟県への移住・定住促進のために様々な体験や留学のプログラムを企画運営している「にいがたイナカレッジ」に参加。今回は移住に関心のある女性を対象として、移住女子の先輩方のトークセッションを見学しました。

移住女子の思いは、自分のやりたいことで実際に生活していけるのか、仕事やプライベートのパートナーはどうやって見つけたのかなど、「働き方」以上に、一番の関心事は「恋愛・結婚・子育て」。地方に暮らしていて見つかるのか、子育て支援の有無など、積極的な意見が飛び交っていました。



定のシェアハウスではありません。

そこで私たちは、移住・定住促進のために、「住居」「仕事」「パートナー」というキーワードを3本柱とし、移住希望者に向けて、これらに対する不安を解消できる仕組みづくりをしていきたいと思います。

ちなみに、村の男性のみなさん。都会の女性は都会の男性がやらない仕草にドキッとしますようです。例えば「軽トラに飛び乗る姿」や「畑で仕事をする姿」などなど。男性のドキッとさせる仕草を募集中!!!（福田）

注意）シェアハウスやまごや以上ほしぞら未満は女性限





旧寺口家活用の現状を報告

12月1日に、お借りしている旧寺口家の「大家さん」である公益財団法人日本ナショナルトラストさんの会員総会に参加し、家屋活用の現状報告をしてきました。

参加者の年齢層が高く、自分の取り組みの新しさがどう思われるか不安でしたが、使うことが保存につながることを理解いただいたり、励ましの声をいただき、有意義な会となりました。

講演後の議論でも、全国にある他のトラスト施設の関係者が集まり、観光と文化財活用について熱い議論が交わされました。伝統や文化を守りながら、どう本質を伝え、産業に結びつけるのか。ナショナルトラストさんの村の課題、日本の観光の課題は極めて近いと改めて感じました。(大倉)

中学校2年生が「白川村に提案する！」

12月5日に行われた白川郷学園地域公開日に、中学校2年生が「白川村に提案する」というテーマでプレゼンを行いました。

各グループごとに白川村のいいところと課題を考え、幸せな村の未来を作っていくためのアイデアを発表しました。「観光客が楽しめる体験施設を増やす」「トレイルイベントを活発にする」「特産品を開発する」「村の子供が楽しめる施設を作る」などの提案に、保護者や地域の方々からも感想や意見をいただき、「村の未来」と「子ども達の将来」を重ね合わせて考える時間となりました。

アドバイザーとして関わらせていただき、生まれ育った地域の将来について、子どもと大人が一緒になって見つめ直す時間の大切さを実感しました。こうした経験が、子ども達のこれからの生活の糧になることを願いながら、私たち協力隊も「村にも色んな人がいて、色んな面白い働き方があるんだ」と実感できる存在であれるように、頑張っていきたいと改めて感じました。

中学校2年生の皆さん、お疲れさまでした！(前盛)

温かいご声援ありがとうございました！

12月13日に行われた村民文化祭で、特別出演として沖縄県八重山諸島の芸能を披露させていただきました。

生まれた島の芸能を白川村で踊らせていただけたことを、嬉しくありがたく思っています。沖縄と白川村とのご縁がこれからもっと深いものになっていけたらいいなと感じた1日でした。

温かいご声援・手拍子、しかいとう みーふぁいゆー！(石垣島の方言で、心からありがとうございましたという意味です)(前盛)



地域おこし隊の活動はインターネットでも公開中！

☆地域おこし協力隊 隊員ブログ「白川村から、こんにちは。」

<http://vill-shirakawa-heritage-mgr.blogspot.jp/>

☆facebook Facebookページ 白川村地域おこし協力隊

<https://www.facebook.com/vill.shirakawa.heritage.mgr>



柴原孝治



大倉 暁



高橋 淳



福田麻衣子



石井直記



梅本もゆる



前盛よもぎ

●問い合わせ・ご相談は 白川村役場 まで